

フィジカルアセスメント: 「呼吸器系・神経系のアセスメント」の演習を行いました

国立看護大学校看護学部の3年生は、毎年5月頃から「フィジカルアセスメント」の演習を行います。この科目では、問診と視診・聴診・触診・打診の技術に加えて、そこから患者さんの健康問題をどのように理解して看護に活用するかを学習します。

演習までにワークブックで予習をしてきて、当日は講義で重要点を確認した後、実習室で実際に体を動かしながら、看護師・患者の役を交代しながら技術の練習をしました。

まず、肺の音（呼吸音）を、お互いに聴き合う練習をしました。異常な音については、コンピュータで様々な音が設定できる「シミュレータ」を使って学習しました



お互いの呼吸音を、聴診器でよく聴いてみましょう。



呼吸訓練法をやってみましょう。



10人が同時に聴診できる無線式聴診器を使います。



Tシャツに肋骨と肺のモデルを張り付けて位置関係を確認しています。シミュレータを使って、呼吸「異常音」の実際の聞こえ方を学びます。



次に、神経系の働きを診るため、瞳孔や腱の反射、聴覚や皮膚感覚の検査を行いました。



ペンライトと定規を使って、瞳孔の大きさや反射を確認します。



打腱器で腱が収縮する反射があるかを確認します。



学生の感想

「聴診器には膜式とベル式があって、その使い方がよくわかりました。聴診している姿は本当の看護師さんのようだなと思いました。」
「想像していたよりも、肺の位置は上の方にあるんですね。」
「呼吸の音は、慣れていないと聞き分けるのが難しいと思いました。」
「神経系の反射やサインは、すぐに動きが見られるのでよくわかりました。」

